

## 全校集会で活用する ～勤労～

山口市立阿知須中学校 野村 康次

### 1 本場面におけるポイント

- 働くことの意義を考えさせるきっかけにして、日常の学校生活に対する意欲を高める（道徳的実践意欲の向上）。

### 2 授業の実際

#### 1 主題名 カッコイイ生き方

#### 2 ねらい

勤労奉仕は、誰のためにするのかという視点をもたせ、自身の奉仕活動の取組の様子について振り返らせる。

#### 3 展開

##### (1) 導入 教師の体験談（要旨）

私が学生時代、今でも親友と思っているAさんと、一緒に飲食店でアルバイトをしていた時のこと。団体客が帰った後、トイレに行くと、便器一杯に、嘔吐物等おうが混じってすごいにおいがするものが詰まっていた。どうしようと思っていたら、次のお客さんが入ってくる音が聞こえた。そんな場面で、あなたはどうするだろうか？

多分多くの人がある時の私と同じことをするのではないだろうか。シュポシュポを捜すのである。しかし、それは無かった。その時、Aくんは何のちゅうちょもなく、手でそれをすくい始めたのである。しかも、手伝おうかどうしようかと迷う私に「ここは俺がやるから、お客を迎える準備をしてくれ。」と言った。その時私は、心から「カッコイイ。」と思った。カッコイイとは、今考えると、自分の手が汚れるとかいうことを優先させるのではなく、店のこととお客さんのことを優先し、何をなすべきか判断し、自分のできる最善のことを決断する姿にあったと思う。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

「経験談を通して、『カッコイイ』の価値観はどこにあったのかを後から考えた時に、それは『人から言われて仕方なしにやったことなのか』『自分のためと考えるとやったことなのか』『誰か他の人のことを考えてやったことなのか』の違いであると考えた。そうした視点に立った上で、今日の君たちの奉仕活動を振り返ってほしい。」（活動の振り返り）

「私たちの道徳」P177 saying より

研究だけをやっていただけでは駄目だ。それをどうやって世の中に役立てるかを考えよ（北里柴三郎）。

我々が死ぬまでには此世の中を少しなりとも善くして死にたいではありませんか。何か一つ事業を成し遂げてできるならば我々の生まれた時よりも此日本を少しなりとも善くして逝きたいではありませんか（内村鑑三）。

## (2) 展開 ボランティア活動の感想を書く

- ・ 「『私たちの道徳』に書かれてある先人たちの言葉はどうだろうか？『世の中』とか『日本』とか後の世代とかを考えて仕事をしようと考えているのではないか。これは本当にすごくカッコイイことなのではないだろうか？」  
(先人の言葉に価値観を加えて理解させる)
- ・ 私の話の後、生徒会長が本日のボランティア活動の総括をし、教室に戻って感想を書いた。



### □ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

先生方には「全校道徳」と銘打っていたが、生徒には「私たちの道徳」を持って集まるように指示はしていたものの、道徳という単語は言っていないので、ボランティア活動を終えての教頭の話と受け取っていることと思う。それは、生徒を徳目による発想に陥らせない、心が動く活動や話があって、初めて道徳的実践力が身に付くということを考えてのことである。

## (3) 終末 私たちの道徳 P172～P177を読む

「私たちの道徳」 P172

私たちの社会には、様々な仕事があり、一人ひとりの勤労や奉仕によって成り立っている。働くことは、自分の夢を実現したり、収入を得て、大切な家族の生活を維持したりすることだけでなく、誰か人のために役立ち、地域や日本、世界を発展させることにもつながっている。

## 3 実践を振り返って

本校は年に2回の全校ボランティア活動のほか、地域行事などへの積極的な取組や地域施設へ車椅子の寄付などを行っており、昨年は表彰も受けている。そうした意味でもほとんどの生徒が真面目に取り組んでいるのだが、中には目的を見失っている生徒もみられる。

今回の道徳は、生徒が奉仕活動をした後だったので、しっかり伝わっていると感じた。生徒の感想



にも、「誰のために行ったか。」という視点で多くのことが語られており、先生方からもおおむね好意的な意見をいただいた。今後も、機会があれば、こうした試みを行ってみたい。